

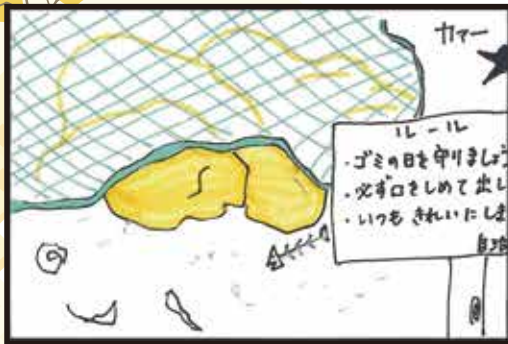
～男女共同参画社会に向けて～

Demain

VOL.57
2021.11

※Demainはフランス語で“明日”という意味です。

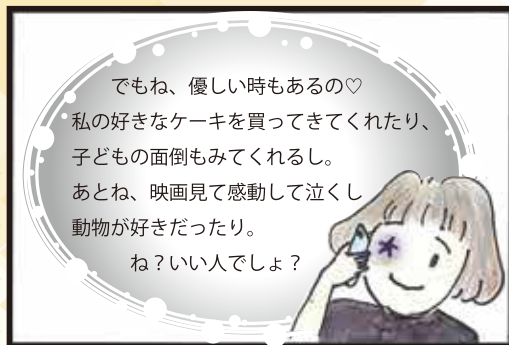
時代は令和



※「ご主人」や「奥さん」など夫婦の呼称について「パートナー」や「連れ合い」などの表現もいいですね。

時代は令和。「共働き」が当たり前の時代です。地域のルールを見直すことも考えてみましょう。そして、家の仕事は「自立」が基本です。

早く気づいて



どんな理由があっても暴力はいけません。まずは友達の話をお身にになって聞いてあげましょう。そして専門の相談機関へ繋いであげられるといいですね。

たひねすでは女性のためのなんでも相談(電話・面談)を行っています。

相談専用電話 ▶ 097-574-5578 [月・金・土] 10時～16時 [火・木] 14時～20時

報告レポート

大学生と話そう！in たびねす

参加者：大分大学 福祉健康科学部 中山ゼミ 教授1名(男性) 学生5名(女性)
たびねす職員4名(男性1名・女性3名)

開催日：令和3年7月9日(金)

第1部 学び『男女共同参画の歴史と必要性について』

第2部 座談会

「男女不平等だ」と思う事はある？

- ある。授業で発表するときやリーダーを選ぶとき、男性が前にでなければ！といった雰囲気がある。
- ある。化粧品や生理用品などお金がかかる。就職活動では身だしなみとして化粧が求められる。

世代間ギャップを感じている時点で、確実に時代は変わっているね！

「親や祖父母世代と自分たちの世代で」「男女平等」に対する意識の違いを感じる？

- 祖父母世代を感じる。親が共働きなので、母の帰りが遅いとあまり良い顔をしない。
- 今は感じるが、育った環境が亭主関白という家庭だったので、間違っているとは思っていなかった。
- 親世代は女性が社会参加することで男女平等を目指していたけど、今は男性の育休など、女性が担っていた役割を分担することで男女平等が進んでいると思う。

確かに！男性が女性に歩み寄る方が、早く社会が変わるかもしれない！

卒業後のライフプランはある？ (仕事・結婚・出産など)

- 仕事もしたい、結婚もしたい、子どもも授かりたい！
- 結婚出産後も仕事は続けたいけど、パートナーの協力が無いと難しいと思う。
- 今は結婚・出産に対してメリットを感じない。でもいい人に出会えば変わるかも！

いろんな意見があっただけいいね！これこそ多様性！

どんな男性がタイプ？

- 全般的に自立できている男性がいい！いつ何があってもいいように私も自立したいから、相手に特別稼ぎがいいとかは求めない。
- 料理・洗濯・掃除など上手じゃなくてもいいけど、できないというのはありえない。

男性陣に聞いてみた！

結婚した息子の家に行きました。妻が座ってテレビを見ています。息子は台所でご飯を作っています。それをみてどう感じますか？

- 男性陣：もやもやしそう…。
：事情があってならいいけど、事情がないなら…
女性陣：座ってご飯がでてくるのを待っている夫は、たいていは事情ないよね？
男性陣：っそ、そうですね…
男性陣：そういった環境で育ってないから、これから考え方をえていかないといけないですね。改めて口にするとおかしいと気づきます(汗)

「生理」について話そう！

- 生理用品は、一人暮らしにとって経済的負担まではないけど安くなってほしいと思う。
- 生理用品より生理痛の薬の方が経済的負担。
- 小中学生の頃は、男性の担任に生理痛と言いにくかった。
- 男性が多い職場では、気まずさから生理休暇ではなく有給休暇を申請してしまう。
- 学校教育も、大人になってからも、男性は生理について習わないから、知識がない。

男性には生理のことは理解できないと考え、生理痛の辛さなどを隠していました。しかし今回、みなさんと話し合えたことで、もっと女性が積極的に正直に話すことで生理についての理解が進むんじゃないかなと感じました。

学生の感想より

座談会では、他にも「同居の話」「母の味」「娘と息子の違い」など様々なテーマで盛り上がりました。大学生も職員も、双方が刺激を受けることができ大変有意義な座談会でした。また、コロナ禍でオンライン授業ばかりだった学生同士が、実際に会って会話ができる良い機会にもなったようです。

学生の感想

家事が得意で、細やかな気遣いのできる妻と、仕事をバリバリこなすお家のことは妻に任せている夫。この2人を、これまでの私であれば、古い夫婦関係だと思っていたと思います。もし、どちらかに負担がかかりすぎているならそれは男女平等とは言えませんが、この関係お互いが満足しているならば、それはその人らしさを発揮できている環境なのだと分かりました。**男女平等という言葉で変なフィルターをかけずに、「人」として尊重できる環境を作ることがこれからの社会に必要なことだと思います。**

今回1番印象に残ったことは、職員の方とのフリートークです。「自分の考えを言うと変に見られるかも」という気持ちになる事もなく話すことが出来ました。そして、自分の価値観や考えをより深める機会になり、また、友人や普段実際に困り事を抱えている人を支えている職員の方の意見を聞けました。**10人の中でも様々な意見や考えがあったので、社会においてはもっとたくさんの考えが生まれるだろうと感じることが出来ました。**その上で多様性を大事にする事はとても難しく、また困っている人を見つけるのも難しいのではないかなと思いました。自分の視野をもっと広く持ちたいと感じるきっかけにもなりました。

男女という性別で判断するのではなく、個人で見ることがもっと広まっていけばいいなと思いました。今回のお話でまた新たに考えたいことが増えました。共生社会とはどのようなものか、男性 女性、そしてジェンダーなど個人が重要視される社会はどうやって作っていくのか今後も考え続けたいと思います。

男女共同参画社会という概念が唱えられるまでの過程を知ることができて良かったです。**家電の開発による女性の生活スタイルの変化など、その時の社会の変化に合わせて人々の働き方や考え方が変化してきたことがよく分かりました。**座談会では、私たちの身近にある問題や、将来的に起こりうる問題について男性も含めて話し合うことで、自分の持っている価値観や、周りの価値観を客観視できたと思います。それぞれの価値観を受容した上で**相手に変化を求めるだけでなく、自分から働きかけるということが重要だ**と気付くことができました。

私の経験では、男女不平等が自分に不利を生じるようなことはなかったのですが、今回センターの方々とお話ししたことで、男女平等に関する考え方が世代や家庭によって異なっていることを知り、現実としての社会は男女平等を唱え続けなければならない社会なのだと改めて実感しました。これからも男女平等社会の考え方は変化すると思うので、**自分が被害とならないように社会に順応できる考え方を育てよう意識していきたいです。**

毎年
11月12日
～25日

女性に対する暴力をなくす運動期間

「性暴力を、なくそう」(令和3年度のテーマ)

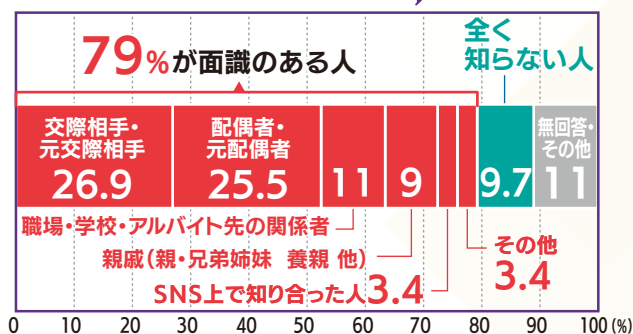
本人が望まなかった性的なできごとは、すべて性暴力です

被害者の心身に多大な苦痛を与え、人格や尊厳を著しく侵害する性暴力。

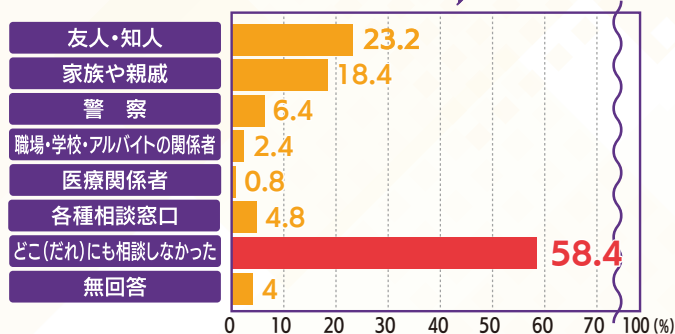
男性から無理矢理性交された経験を持つ女性は14人に1人と、決して「稀な」話ではありません。しかし、好奇の目や無神経な言葉にさらされたりして、二重、三重に傷つくことを恐れ、被害を訴え出ない人が多いのが現状です。

パープルリボンは女性
に対する暴力根絶の
シンボルマークです。

加害者との関係



被害の相談先(複数回答)



※参考資料:令和2年度男女間における暴力に関する調査/内閣府男女共同参画局HP

家族、友人、知人など大切な人が被害にあうと、家族や周囲の方もショックを受け、どのように対応してよいかわからなくなります。でも、みなさんは被害にあわれた方にとって、安心や信頼を与えることができる重要な方たちです。

身近な人ができること

被害者の安全を確保してください

「あなたは悪くない」と繰り返し伝えてください

信じて話を聞いてください、気持ちを丁寧に聞き、そのまま受け止めてください

あなた自身のところとからだにも気を配り、無理をしないでください

身近な人に気を付けてほしいこと

身近な人の言動により、被害者がさらに傷つくことがあります。

「あなたも不注意だった」(落ち度を責めない)

「早く忘れてしまえばいいよ」「たいしたことないよ」(軽視しない)

「本当?」「あの人がそんなことするはずがない」(疑わない)

「あなたなら大丈夫」「頑張れ」(安易に励まさない)

「警察に相談すべき」「学校・仕事は辞めるべき」(一方的に助言しない)

セミナーのお知らせ

性被害にあった小3のあの日 ～性暴力被害者の闘いと回復～

日時:2021年11月27日

10:00～11:30

場所:大分市男女共同参画センター(たびねす)

会議室1

性暴力被害者である工藤千恵さんを講師に迎え、被害者も加害者も生まない社会を願って自身の体験をお話していただきます。

セミナーの受付は電話またはこちら▶



不登校で悩む親を一人も孤立させない

星の会

不登校・ひきこもりを考える親の会

男女共同参画推進団体の紹介

27年前に一人の母親が、「子どもが不登校の親に会いたい。同じ立場の人と話をしたい」という願いを持ちました。その保護者と教員の3人で始めたのが、星の会の始まりです。陽のあたる小さな公民館の一室で、ただ話を聴くだけのひととき。

今では、星の会は大分市で例会(グループ・カウンセリング)を1ヵ月に2回開いています。大分市以外の4つの地域(別府市・津久見市・豊後大野市・由布市)でも例会を開いています。27年間で開いてきた例会は1000回を超えます。また、ひきこもりを考える親の会(アンダンテ星の会)の例会も3ヵ月に1回開いています。

「不登校で悩む親を一人も孤立させない」が、星の会のビジョンです。会員は300人で、北海道～沖縄県の方が入会しています。その多くは例会には参加しませんが、毎月発行する会報でつながっています。その一人ひとりの会員が、不登校やひきこもりで悩んでいる親の心を聴いています。

たびねす <大分市男女共同参画センター>

〒870-0021 大分市府内町1丁目5番38号(コンパルホール2階)

TEL.097-574-5577 FAX.097-537-3666

◎開館時間/午前9時～午後5時(火・木 午前9時～午後9時)

会議室は午前9時～午後10時まで

◎休館日/第2月曜日 ※国民の休日と重なった日はその日以降の休日でない日

年末年始(12月28日～1月3日)